

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	山岳博物館	山岳博物館	係	事務事業No.	110613		
事務事業名	山岳博物館教育普及事業							
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画掲載頁	42	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供						
	施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進						
個別計画	第7期 社会教育計画					37	頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	市民・市内学生及び大町市を訪れる観光客。			生涯学習の機会の提供。山岳に関わる文化・科学の継承及び教育普及事業を推進する。				
主な業務内容	令和2年度企画展は、4月より「日本山岳画協会 大町展」、7月より「博物学と登山」、10月より「雪が織りなす物語」を開催。実際には、コロナウイルス感染症拡大防止の為、4月19日～6月1日までの間は博物館並びに付属園は休館し、「日本山岳画協会 大町展」の会期が約半分の日数になるとともに、計画していたワークショップの中止を余儀なくされた。また令和2年度の新たな試みとして、年度末に「山のサイエンスカフェ in さんばく2021」と題して、博物館の1年の研究成果を2日間にわたってお伝えすることができ、研究紀要などの成果をわかりやすい言葉で、これからもお伝えする機会として継続していきたい。							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		3,949,522	円	3,409,083	円	4,347,563	円	
	財源内訳	特定財源	3,000,000	円		円		円	
一般財源		949,522	円	3,409,083	円	4,347,563	円		
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	企画展・特別展実施回数	回	1	1	3	3	100.0%	3
	②	学習会・観察会実施回数	回	60	57		65		70
③	学校との連携・融合事業数	回	35	37	50	50	100.0%	50	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	企画展・特別展見学者	人	9,376	7,990	10,129	12,000	84.4%	18,000
	②	学習会・観察会参加者	人	1,509	1,430	912	1,500	60.8%	1,500
	③	学校との連携・融合参加者	人	1,516	1,469	1,357	1,600	84.8%	1,600
2. 数値で表せない効果 （指標①）									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	改善の余地あり			
	点数	3	3	3	3	2	2		18	
<p>評価理由</p> <p>常設展示については、部分的な展示の入れ替え、最新の研究成果などの説明を加え工夫をしている。企画展については年間3本の企画展を開催、コロナの影響で観覧者を迎えることができなかった時期があったが、変動に臨機に対応できるよう準備自体はしっかりと行うことができた。感染防止についても適切な処置を施し、博物館での感染の発生はなかった。年度後半には、企画展に合わせて関連事業も再開され、参加者数に制限を加えて開催し、決して効率は良くはなかったかもしれないが、学習機会を閉ざすことがないよう心掛けイベントを開催した。あわせてSNSなどを利用し、新たな情報発信の試みを行い、挑戦する一年とすることができたと思う。</p>										

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>企画展については年間3本の企画展を基本として長期計画をしているが、今後付属園改修、展示改修など他の業務との兼ね合いから業務多忙が予想され、企画展数については臨機に対応して考えていきたい。一方で、企画展を開催すれば確実に入館者増に繋がることはこれまでの実績から承知しているが、企画展来館者内訳をみると市民の方々のリピーターが少なく、今後の改善が求められる。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>これまでも市民の方々の利用を増やすため、様々な試みを実施してきたが、高齢化社会がさらに進む今後を見据えて、いかに老後を楽しみながら、有意義な人生を過ごすために、生涯学習を行う環境を作っていくか、博物館としても再度考えてみたい。</p>

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	山岳博物館	山岳博物館	係	事務事業No.	110614		
事務事業名	山岳博物館調査研究事業							
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	46	頁
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実						
	施策項目	山岳文化の振興と活用						
個別計画	第7期 社会教育計画						37	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	市民並びに博物館を活用する観覧者。			大学機関や研究機関と連携し、北アルプス及び山麓地域における自然や文化をテーマとした調査、研究活動を推進する。またその成果を教育普及活動に反映させる。				
主な業務内容	令和2年度の主な調査研究活動 (1) 高山植物の生活史に関する研究、(2) 大北地方の植物分布調査、 (3) ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究、(4) チョウゲンボウの遺伝的多様性の解明、 (5) 博物学に関する資料調査、(6) 山岳書籍に関する資料調査、 (7) 仁科三湖と佐野坂丘陵の成り立ちを探る、(8) 北アルプスの雪を降らせる気象条件 ほか							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	総事業費（決算額）		248,686	円	246,067	円	284,036	円
	財源内訳	特定財源	円		円		円	
一般財源		248,686	円	246,067	円	284,036	円	
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	自然科学分野調査研究	6	3	6	4	150.0%	6
	②	人文科学分野調査研究	4	3	3	6	50.0%	2
③	外部との共同研究	3	3	6	3	200.0%	7	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	調査後の成果の公開度	3	4	6	7	85.7%	6
	（企画展・紀要などへの公開度）							
2. 数値で表せない効果		（指標①）調査研究は、単年度で成果の出るものから複数年に渡り調査が必要なものまであり、ここでは調査を実施した実数を示した。						

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	普通	普通	重複なし	普通	適正である			
	点数	3	2	2	3	2	3		18	
評価理由		博物館では各分野においてテーマを決め、年間を通して調査・研究を実施している。その成果については速報的に広報誌「山と博物館」や常設展示「さんぱく研究最前線」などで市民の皆さんにご覧頂き、積み重ねた成果は順次企画展、常設展示に反映させている。展示をご覧になった方々からは、展示の内容や見やすさなど期待に応える成果が得られたのか、常時アンケートを取り、観覧者の皆さんからご意見や提案などを聞き、今後の調査・研究・展示に活かすように心がけている。								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
調査研究事業は、その後の教育普及・展示などへ反映させるための基礎となる重要な事業であるが、現状は日常の業務に時間を割かれ十分なまとまった調査時間を確保できないのが現状である。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
博物館においてこうした調査研究を実施し、その重要性を知っていただくため、令和3年度より小・中学生や大人を対象にした市民との共同調査を、令和3年度より動物や植物の分野において取り入れ実施していきたい。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	山岳博物館	山岳博物館	係	事務事業No.	110615
事務事業名	山岳資料収集保管事業					
会計	一般会計		款	10	項	6
					目	1
総合計画	まちづくりのテーマ 第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	46
	施策目標 芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実					
	施策項目 山岳文化の振興と活用					
個別計画	第7期 社会教育計画					37
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	山岳博物館に関する資料や文献など、博物館の機能充実のために、学術資料の購入や寄贈を受け入れ、将来の展示等の為に資料の整理・保管を行う。			新規に受け入れた資料は、展示に活用するとともに、将来の基礎資料として整理を行い、後世にわたり活用できるように適正に保管管理を行う。		
主な業務内容	企画展や常設展示に欠かせない新規資料の購入や市民からの寄贈資料の受け入れ。寄贈資料受入のための事務手続きと整理作業、台帳管理。保存に際しては継続的な害虫駆除のほか、新規受け入れの際には浸透性の高いフッ化スルフリル系薬剤による包み込み燻蒸を実施し、館内への害虫の進入を防ぎ、資料の永続的な保管を行う。					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	総事業費（決算額）		3,497,664 円	2,739,893 円	2,214,191 円
	財源内訳	特定財源	円	764,000 円	円
一般財源		3,497,664 円	1,975,893 円	2,214,191 円	

活動指標	指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	自然科学新規収集資料	件	3	6	4	3	133.3%	3
②	人文科学新規収集資料	件	8	7	7	5	140.0%	5
③								

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	①							
②								
③								

2. 数値で表せない効果
 （指標①）自然科学、人文科学に関する新規資料は、現在の博物館展示資料を補完する資料として貴重であり、ただちに展示できない資料でも将来において活用を見込める資料があり、そのための収集整理保管は欠かせない。

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化		
		評価	高い	普通	高い	重複なし	普通		
点数	3	2	3	3	2	3	18		

評価理由
 毎年博物館には数千点にのぼる資料が寄贈され、そのすべての寄贈資料は、整理・分類化され、台帳管理を行い、害虫駆除の後保管され、一部は展示や閲覧に供している。また博物館に収蔵されている資料については、ホームページを通じて公表されるだけではなく、最近では世界中で利用可能なミュージアムネットへの加入を行い、国内の研究機関や博物館からの問い合わせに応じ、側面的に博物館の価値を高める取り組みを行っている。今後は、博物館での展示だけでなく、ホームページなどで博物館を代表する資料などについて、資料の情報公開を一層進めていきたい。

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など） 年度により寄贈資料の多寡はあるが、毎年全国からの寄贈依頼があり資料が充実してきている。資料整理には時間と手間がかかる割りに、一般の方にはそうした業務があることを知られていないことが多い。受け入れ時の資料整理を行わなければ、資料としての価値を減じ、意味を失ってしまうこともままあり、その重要性について理解していただくような試みが必要。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容） 令和2年度において、博物館での資料受入から保存管理についてどのような作業を行っているのかを、市民の方々に知っていただくこと、初めてバックヤード見学会を実施し、小学生から大人の方まで多くの方が参加していただき、博物館では日頃は表に出ない地味な作業がこつことと行われていることを知っていただく機会をもった。今後も定期的にこうした機会を持ち、博物館の果たしている役割を市民の方々に知っていただくよう努力していきたい。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	山岳博物館	山岳博物館	係	事務事業No.	110616		
事務事業名	動植物飼育栽培繁殖事業							
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ 第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					前期計画掲載頁	46	頁
	施策目標 芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実							
	施策項目 山岳文化の振興と活用							
個別計画	第7期 社会教育計画						37	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	市民並びに観覧者を対象として、貴重な野生動物を保護し、飼育・繁殖及び栽培、調査研究を行いながら、北アルプスに生息する生物の生体展示を行う。			博物館本館の展示と連携した野生動植物の飼育・栽培及び繁殖・増殖を行い、山岳博物館としての機能の充実を図る。				
主な業務内容	付属園の機能・役割として、博物館本館だけでは伝えきれない生体展示としての動物や植物の実物の姿を見ていただき、その生態の不思議と命の大切さを伝える。また飼育栽培している動植物を活用した調査研究及び教育普及活動を実践する。また付属園の果たす役割を達成するために、施設整備に努める。							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度			
	総事業費（決算額）		6,457,837 円	6,550,736 円	5,930,597 円	達成率			
財源内訳	特定財源		156,000 円	126,000 円	127,000 円	次年度（R3）			
	一般財源		6,301,837 円	6,424,736 円	5,803,597 円	目標値			
活動指標	指標名		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	単位		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	動植物種類	種	79	79	104	90	115.6%	110
	②	新規保護動物収容数	個体						
③	教育普及開催日数	回		10	2	10	20.0%	10	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	保護動物収容数	個体	19	32	36	36	100.0%	38
	②	教育普及事業参加者	人		2,702	ロナウイルスにより中止	2,500	—	2,500
③									
2. 数値で表せない効果									
（指標①）成果指標のうち、②教育普及事業参加者とは、付属園まつり参加者数を表している。									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	普通	重複なし	低い	適正である			
点数	3	3	2	3	1	3	18			
評価理由	付属園の改修計画及びライチョウの感染症対策のため、当面は傷病鳥獣などの動物の受け入れは行っておらず、現在飼育している動物に専念し、教育普及事業を行っている。付属園での教育普及の柱となるのが、ゴールデンウィーク期間中に開催している付属園まつりであるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に実施しなかった。今後は感染状況を考慮しながら、付属園まつりの内容についても感染拡大につながらないような内容に変えながら、動物や植物の生態や命の大切さを考える場を設け、教育普及活動を継続していきたい。									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
付属園整備については、ライチョウ舎については近年飼育環境も整備されてきたが、一般動物の飼育舎などについては、付属園が整備されて以降、修繕のみで、日本動物園水族館協会が定める動物の飼育環境のあるべき指針に満たない状況のままとなっている。これを改善すべく現在付属園整備計画の内容について検討している。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
付属園整備に関わる具体的な整備計画案を実態に即して見直しを行い、併せて財政的な裏付けを検討・調整を進める。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	山岳博物館	山岳博物館	係	事務事業No.	110617	
事務事業名	ライチョウ飼育事業						
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1
総合計画	まちづくりのテーマ 第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					前期計画登載頁	46
	施策目標 芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実						
	施策項目 山岳文化の振興と活用						
個別計画	第7期 社会教育計画						37
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	対象は、ニホンライチョウ及びスバルバルライチョウ。			環境省のニホンライチョウ保護増殖事業の一環として、ライチョウの生息域外及び域内保全事業に寄与。保護増殖技術の確立。ライチョウについての調査研究及び一般公開による教育普及の推進。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンライチョウの繁殖、飼育事業及びスバルバルライチョウの飼育事業の実施。 ・ニホンライチョウ及びスバルバルライチョウの生態の調査研究・教育普及の実施。 ・ニホンライチョウ及びスバルバルライチョウの一般公開・展示による教育普及。 						

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	総事業費（決算額）		10,186,368	円	7,974,768	円	6,820,053	円
	財源内訳	特定財源	8,000,000	円	3,016,000	円	1,501,000	円
		一般財源	2,186,368	円	4,958,768	円	5,319,053	円
活動指標	指標名		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
			実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	スバルバルライチョウの飼育数	3	2	2	2	100.0%	2
	②	ニホンライチョウの飼育数	6	8	6	12	50.0%	10
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
			実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	ライチョウ見学者数	1,700	21,000	13,000	23,000	56.5%	20,000
	②	（一般公開はH31.3.15～）						
	③							
2. 数値で表せない効果								
（指標①）ライチョウの見学者の伸びだけではなく、実際にはホームページやSNSを通じて、ライチョウに関心を持つ人が、山岳博物館に関心を寄せ、あるいは大町市を訪ねたくするような動機付けになっている。								

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	17
	点数	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である				18	
	評価理由	<p>環境省が進めるニホンライチョウ保護増殖事業に参画し、繁殖・育雛・調査研究・展示公開と果たすべき役割をこなしている。しかし残念ながら繁殖においては想定するような成果が出ていないのが現状であり、今後これまでの経験を生かして来年以降の繁殖成功に結び付けていかなければならない。また教育普及活動についても、一般公開を行い来館者の方々にライチョウをご覧いただいているが、今後はSNSなどを通じ、まだ博物館に来館されていない方々に情報が届くように教育普及にも力を入れていきたい。</p>										

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>ニホンライチョウの飼育繁殖に関わる技術確立に向け、関係する環境省を中心に飼育園館や大学機関が相互に情報共有を行い取り組んでいる。令和2年度は自然繁殖に取り組んできたが、残念ながら生育に至らず、今後も自然繁殖の成功に向け取り組んでいきたい。低地における保護増殖技術を確立し、増殖事業に貢献できるよう、技術の確立に努めるとともに併せて後継者の育成に努めていきたい。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>飼育園館と連携を密にし情報共有を行い繁殖・育雛を成功させていきたい。また飼育状況など最新の情報をSNSなどを活用し、情報発信を行っていきたい。</p>

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	山岳博物館	山岳博物館	係	事務事業No.	1106112		
事務事業名	付属園整備事業							
会計	一般会計	款	10	項	6	目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	42	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供						
	施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進						
個別計画	第7期 社会教育計画					37	頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	市民及び観覧者を対象。			老朽化している一般動物を対象とした飼育舎などの整備に加え、高山植物や岩石、憩いの空間展示を兼ね、備えた付属園整備計画に沿って、今後計画的に整備を行っていく。				
主な業務内容	付属園ではこれまでにスバルバルライチョウ舎、ニホンライチョウ舎と一般一般動物飼育舎に先行して整備を進めてきたが、今後一般動物の飼育施設を整備するにあたって、環境エンリッチメントに準拠した、生き物の生活・生体・福祉を考えた施設整備が考えられている。これまでの動物を展示し鑑賞する施設から、低山から高山への環境を復元し、動物の展示以外にも植物や岩石露出展示なども行い、憩いの空間を創造し、市民や観覧者が楽しみながら学べる空間整備を行う。							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	総事業費（決算額）		1,882,644	円	867,570	円	754,875	円
	財源内訳	特定財源	円		円		円	
		一般財源	1,882,644	円	867,570	円	754,875	円
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①							
	②							
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①							
	②							
	③							
	2. 数値で表せない効果							
(指標①)								

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化					
	評価	高い	普通	普通	重複なし	普通	適正である				継続	15
	点数	3	2	2	3	2	3					18
評価理由	令和2年度は付属園整備計画の内容の修正および年度別の整備事業の内容などの計画を作成した。そのため本年度分に予算措置された内容は、老朽化した施設の応急的な修繕工事が主たるものである。付属園の建設については、昭和57年に本館建設とともに整備がされて以降、部分的に修繕が行われてきたが、抜本的な整備は行われてこなかった。市民の方々そして観覧者が、北アルプス生息する動物を身近に観察でき、高山の雰囲気味わえるような空間整備を行うとともに、安らぎながら学べる付属園整備を行っていく。											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
付属園整備構想の方針と、予算規模との兼ね合いから、あらためて整備構想の内容を修正した。現在これら整備にどのような補助事業があるか検討作業が行なっている。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
整備構想の内容についてしっかりと確定し、補助事業についても、最適なものを企画財政課と選択調整した上で、山岳協議会などに説明を行い、ご意見を頂きながら最終案を固めていきたい。